

# 第 6 章

# 林 業

## 第6章 林業

### 概況

大阪府の森林は、都市化が高度に進んだ大阪平野を北から北摂、金剛生駒及び和泉葛城の三山系により取り囲むような形で位置しており、林業の基盤としてだけでなく、天与のグリーンベルトとして、水源の涵養、山地災害の防止、保健休養等の多様な公益的機能を果たしている。

これを森林植物帯からみると、大部分は暖帯林で、一部には温帯林も見られる。しかし、現在の森林は大部分が「あかまつ」、「くぬぎ」、「こなら」等の二次林、あるいは「すぎ」、「ひのき」等の人工林である。なかでも、金剛、葛城山系では「すぎ」、「ひのき」が集中し、府内で最も集約的な林業が営まれている。

### 林業経営体数

大阪府の農林業経営体数は2005年農林業センサス(平成17年2月1日現在)によると、農業と林業を行っている経営体数が1258戸、林業のみを行っている経営体数が303戸となっている。

### 林野面積

大阪府の林野面積は5万7847haで、前年より52ha減少した。

また一方で、国有林野面積は1039ha、官行造林面積は220haで前年と同数であり、民有林野面積は5万5381haで前年より72ha減少した。

大阪府総面積18万9373ha(平成15年4月1日現在)に占めるそれぞれの割合は、国有林野面積が0.5%、民有林野面積が29.2%、官行造林面積が0.1%である。

府内の林野面積の大部分を占める民有林野のうち、立木地は5万2719haで前年より69ha減少し、民有林野面積の95.2%を占めている。その内訳は、人工林が2万7035ha(構成比51.3%)、天然林が2万5684ha(同48.7%)となっている。また、樹種別内訳は針葉樹が3万8561ha(構成比73.1%)、広葉樹が1万4158ha(同26.9%)

となっている。

民有林野面積を市町村別にみると、能勢町が7683ha(構成比13.9%)で最も多く、河内長野市7318ha(同13.2%)、高槻市4488ha(同8.1%)の順となり、この3市町で全体の35.2%を占めている。

### 林野蓄積量

大阪府の林野蓄積量は768万2000m<sup>3</sup>で、その内訳をみると、国有林野蓄積量は17万1000m<sup>3</sup>で前年と同数であった。

民有林野蓄積量は751万1000m<sup>3</sup>で前年より4万4000m<sup>3</sup>増加し、官行造林蓄積量は1万2500m<sup>3</sup>で前年と同数であった。

民有林野蓄積量のうち人工林は482万6000m<sup>3</sup>(構成比64.3%)、天然林は268万5000m<sup>3</sup>(同35.7%)である。また、樹種別内訳は針葉樹が666万4000m<sup>3</sup>(構成比88.7%)、広葉樹が84万7000m<sup>3</sup>(同11.3%)である。

民有林野蓄積量を市町村別にみると、河内長野市が127万3000m<sup>3</sup>(構成比16.9%)で最も多く、以下、能勢町83万4000m<sup>3</sup>(同11.1%)、高槻市62万7000m<sup>3</sup>(同8.3%)の順となり、この3市町で全体の36.3%を占めている。

### 苗木生産量等

山行造林用苗木の生産量は6万6000本で、前年と同数であった。樹木別にみると、「ひのき」が5万9000本(構成比89.4%)で最も多く、以下、「くろまつ」が4000本(同6.1%)、「すぎ」が2000本(同3.0%)となっている。

大阪府内の林産物素材の生産量は2万2000m<sup>3</sup>で、前年より1000m<sup>3</sup>増加した。林産物素材の入荷量(府内生産量を含む)は4万9000m<sup>3</sup>である。

### 市町村別森林資源面積（私有林）（平成18.3.31）

